

# 男と女のスポーツ・サイエンス

8月4日、横浜市戸塚にあるY.M.C.A.で、ある青年の壮行会が行われた。

話は、14年前にさかのぼる。当時22歳だった青年は、オートバイで北米大陸一周の旅に出る。

ロサンゼルスを出発した彼は、カナダとアメリカの国境沿いを東に向かい、その後アメリカの南部を回ってロサンゼルスに帰ってくるつもりだった。

ところが、カナダの東海岸で事故に遭い、ノバスコシア州シドニーの病院に担ぎ込まれることになってしまう。もちろん、目指した北米大陸一周の旅は、

## 青島 健太

(スポーツライター)

「やっぱり一番の問題は資金をどうするかということ。それと乗り物をどう手配するかということにも悩みました。でも本当に多くの方々の援助を受けて、なんとかこの計画を実現させることができました」と、彼は壮行会で挨拶する。

ここで頓挫することになる。

20日間意識不明の状態が続き、半年余りの入院を余儀なくされる。日本に帰ってきた彼は、地元の戸塚に戻り、オートバイと宝石の店を営み、ついでに同

り物をどう手配するかというこ

とにも悩みました。でも本当に多くの方々の援助を受けて、なんとかこの計画を実現させることができました」と、彼は壮行会で挨拶する。

トバイのようにまたがって乗り、後輪が車のようになっているので、止まっても倒れる心配がないという三輪のオートバイである。

彼がこのトライクにこだわったのは、14年前のチャレンジ同様、大きなマシンにまたがって風や雨を楽しみながらアメリカ

を感じたいと思ったからだ。た。 「アメリカから輸入して自分

が使いやすいように適切な改造を加えました。出発の日が近づいているので、今はもう船に乗ってひと足先に現地に向かって

います」

彼が発発の地を選んだのは、旅の途中で事故に遭い、入院していたシドニーの病院前。そして、出発の日も彼が14年前に病院に担ぎ込まれた8月30日と決めている。

「それは、このチャレンジを思いついた時から決めていたんです。時間も場所も当時の続きからやろうと」

出発の地がシドニー。そして前回は二輪で、今回は三輪。合わせて五輪となれば、彼のチャレンジもまさにシドニー五輪級である。

青年の名は「たろ」こと服部一弘さん。ただ唯一、彼が五輪選手と違うのは、下半身が麻痺していることである。

## シドニーから五輪で挑戦

じ店内で本格的なカレー料理の店も始める。

しかし、その間、常に彼の頭の中を離れなかったことは、いつの日か旅の続きを行って、終わっていない若き日のチャレンジを完結させることだった。

1万4000円にも及ぶ旅に耐えられる乗り物として選んだのは、トライクと呼ばれる三輪の乗り物だった。

日本では、なかなか見る機会の少ないものだが、アメリカでは、よく知られた乗り物。オー